

2018年5月30日

各位

小野薬品工業株式会社

「免疫炎症性難病創薬コンソーシアム」の発足について
3アカデミア・3製薬企業による協調的・競争的な創薬研究をスタート

小野薬品工業株式会社（代表取締役社長：相良暁、以下、当社）は、慶應義塾大学（塾長：長谷山彰）、高知大学（学長：櫻井克年）、医薬基盤・健康・栄養研究所（理事長：米田悦啓）、田辺三菱製薬株式会社（代表取締役社長：三津家正之）、第一三共株式会社（代表取締役社長：眞鍋淳）とともに、免疫炎症性難病を対象とした創薬研究を行うことを目的に、「免疫炎症性難病創薬コンソーシアム（以下、本コンソーシアム）」を発足しました。

近年、免疫炎症性難病の改善・完治をめざして、世界的に、臨床検体を最新技術で解析したデータが創薬研究に活用されています。しかし、各種免疫炎症性難病の臨床検体数の収集の限界や研究費用のさらなる増加により、今後は、従来のようなアカデミアと企業との一対一の共同研究だけでは効率的な新薬開発が難しくなることが考えられます。

本コンソーシアムではこうした課題を克服するため、慶應義塾大学病院リウマチ・膠原病内科、消化器内科と高知大学医学部附属病院免疫難病センターが、複数の免疫炎症性難病患者を対象とした治療前後の臨床検体および疾患情報の収集を行い、医薬基盤・健康・栄養研究所でこれらの臨床検体について遺伝子発現解析を含めた詳細かつ網羅的な解析を行います。本コンソーシアムにおいて蓄積された各種データをもとに構築される質の高いデータベースは、アカデミアおよび製薬企業間で共有されます。製薬企業各社は、このデータベースを活用し、免疫炎症性難病治療薬の創製をめざして独自の創薬研究に取り組む一方、各アカデミアは、研究成果をさらなる基礎・応用研究に役立てるといふ、これまでにないユニークな産学連携コンセプトのもとに本コンソーシアムは運営されます。

当社は、医療ニーズの高い免疫疾患を重点研究領域のひとつとして、独創的かつ画期的な医薬品の創製を目指しています。本コンソーシアムから得られる成果が、免疫炎症性難病に対して高い有用性を持つ次世代医薬品の創製につながり、患者さんや医療従事者に新たな治療選択肢を提供することが可能になるものと期待しています。

以上

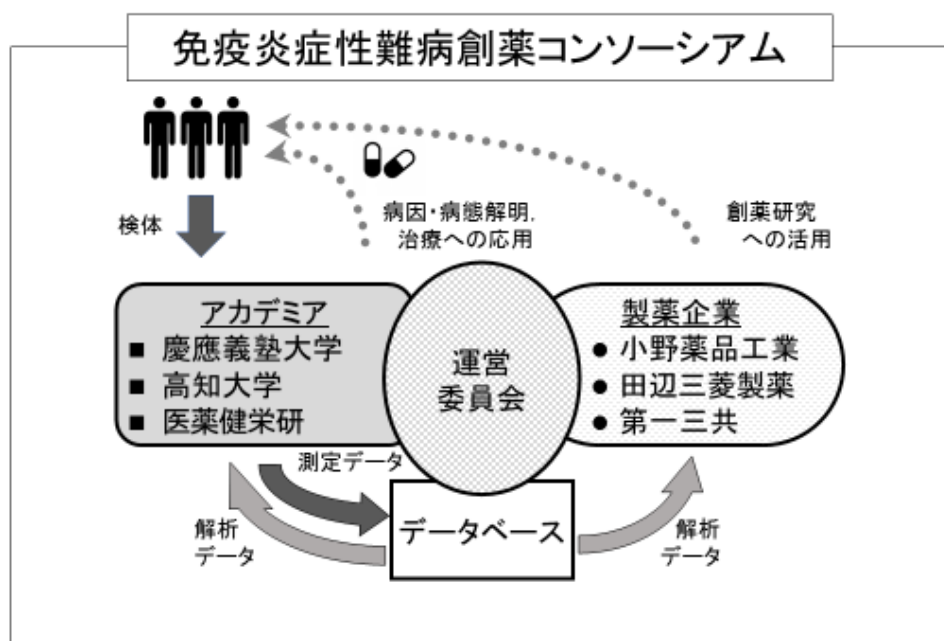
<本件に関する問い合わせ先>

小野薬品工業株式会社 広報部

TEL：06-6263-5670

FAX：06-6263-2950

<参考>



1. 名称

免疫炎症性難病創薬コンソーシアム

2. 研究期間

5年間（2018年度～2022年度）

3. 目的

免疫炎症性難病を対象とした質の高い臨床データ解析を通じた新しい治療薬・診断薬の開発

4. 所在地

東京都新宿区信濃町35（慶應義塾大学信濃町キャンパス）

5. 参画機関

慶應義塾大学病院 リウマチ・膠原病内科、消化器内科

高知大学 医学部附属病院免疫難病センター

医薬基盤・健康・栄養研究所トキシコジェノミクスプロジェクト

小野薬品工業株式会社

田辺三菱製薬株式会社

第一三共株式会社

6. 対象予定疾患

免疫炎症性難病